

学生チャレンジプロジェクトSDGs活動報告書



プロジェクト名

No.26 余白空間を用いた多世代交流促進のための拠点及びまちづくり活動

プロジェクトのターゲット目標(17項目)を○で囲んでください。

No.01	No.02	No.03	○No.04	No.05
No.06	No.07	No.08	No.19	No.10
○No.11	○No.12	No.13	No.14	No.15
No.16	No.17			

活動報告

本プロジェクトは団地供給から50年以上が経過し、人口減少や少子高齢化、建築ストックの有効活用が求められている愛知県瀬戸市の菱野団地を対象とする。菱野団地では、住民主体のエリアマネジメント団体である「みんなの会」を中心に団地再生が進められている。また、大学コンソーシアムせとによる3大学5研究室の活動が展開されており、学生との関係性が深く、学生の挑戦に対して連携を図りやすい環境にある。そこで、学生である私たちが介入し、実践的にまちづくりへ参加し、住民参加型の空間づくりを通じて、団地における交流の場を創出し、地域主体の持続的なまちづくりを促進することを目的とする。

今年度は、7月から8月にかけて実施した「ひしのミナクル」の掲示板制作ワークショップ、11月から12月にかけて実施した菱野団地中央広場ウッドデッキの整備に取り組んだ。

各ワークショップでは、私たちチームメンバーのみならず、瀬戸市役所都市計画課及びみんなの会、南山大学や名城大学の学生と連携しワークショップを実施し、企画から計画、検討を行った。施工では、菱野団地に居住する年配層から若年層の参加を得て、施工、完成に至るプロセスを共有した。これらの活動を通じて、目標4「質の高い教育をみんなに」ターゲット5「教育における男女格差をなくし脆弱層が教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。」または、目標11「住み続けられるまちづくりを」ターゲット3「参加型・包括的・持続可能な人間居住計画・管理能力を強化する。」に貢献した。現在、社会全体では少子高齢化による人口減少や世帯数の減少に伴い空き家が増加し、既存建築ストックの活用が重要な課題となっている。そのため、商店街の空室を活用した「ひしのミナクル」や中央広場のウッドデッキに付加する形で制作を行った。また、昨年度以前の活動で使用されなかった未使用材や廃材を活用することで、持続可能な消費と生産にも配慮した。これらの活動を通して、目標12「つくる責任使う責任」ターゲット2「天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する」に貢献した。



団体紹介 愛知県瀬戸市の菱野団地において、私たち学生が主体となり、瀬戸市やみんなの会、他大学、地元企業、地域住民の方々の協力を得て、掲示板の制作と中央広場のウッドデッキの整備を行いました。